

閉鎖水域などでの二枚貝の養殖に効果が期待。

普通肥料  
取得済み



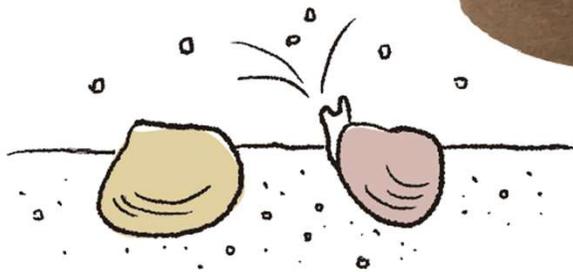
# MOFU-DX

華燦々 + 華煌ら(S)

普通肥料の「華煌ら(S)」を使用し、  
環境も安心安全に。

- サイズ：高さ25cm 直径25cm
- 重量：約12kg

アサリの餌となるプランクトンやバクテリアなどが MOFU-DX から緩やかに溶け出す窒素やリン酸を必要としています。



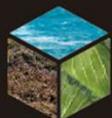
アサリなどの二枚貝は海水に含まれる植物性プランクトンの死骸、海洋生物のフンなどの有機物で増殖したバクテリアを体内に取り込んでいます。

そのプランクトン、バクテリアは陸上からの有機栄養素も必要としていますが、**有機過多になると底質に負荷**をかけてしまい、アサリのすみづらい環境となってしまう。

この MOFU-DX は腐熟し普通肥料として登録されている「華煌ら(S)」を固形化することで、栄養分が一度に溶け出しにくく、バクテリアの増殖にも持続性のある栄養素になっています。



MOFU-DX には鉄鋼スラグもブレンドされており、MOFU-DX から溶出される鉄分も有用な栄養分として評価されています。



# IBA-DX

華燦々 使用

MOFU-DXで栄養源を確保し、  
IBA-DXで底質改善。

IBA-DXの働きは、硫化物発生要因の粘着性の高い有機物の分解であり、またその有機物を隠れ蓑にしていた硫酸還元菌等有害菌の抑制です。

有機物が分解されることで底生土着菌が動ける環境となり、MOFU-DXから溶出される栄養素も加わり、負荷有機物をタイムリーに分解する事で底質環境を維持する事が可能となっています。

MOFU-DXとIBA-DXが相互に作用し、環境改善に向けて働きかけます。



**Before**

藻が付着した海辺に MOFU-DX と IBA-DX を設置。まずは IBA-DX が粘着性の高い有機物の分解をし、MOFU-DX から緩やかに栄養成分が溶け出します。



**After**

設置から約半年後には底質の粘着性が薄れ、付着していた藻もなくなり、土着菌が活性化され、アサリの収穫率も増大しました。

# MOFU-DX主原料 華煌らとは、

## • 特殊肥料

県単位で肥料分析表と製造工程フロー提出した時に、発酵工程を経ていれば殆どの場合が受理される。

但し完全に腐熟化しているかどうかの精査は行われないため、未熟・中熟・完熟かは若干グレーゾーンである。

## • 普通肥料

肥料分析表と工程フローを県に提出、その時分析値には規定数値クリアが条件となる。

同時に行政側でも分析行い規定分析値以上であれば国の農林水産省へ提出され認定となる。

因みに弊社の場合、生鶏糞が完全に腐熟化された時の減容率は年間約2,300t→900tで約60%である。

## 土着菌活性IBA-DX主原料(華燦々)とは、

- 日本海汽水域にて原種酵母菌採取行い、天然由来有機物を培地にして一次培養を行い、同時に天然由来ハーブから有効抗酸化成分を抽出・濃縮・熟成掛け、その二種を混合し二次培養を行った生菌資材がバイオエキス(華燦々)である。
- 蓄糞やヘドロのバインダーであり、有害菌のコロニーとしている粘着性の高い有機物を積極的に分解し、元々生息する土着菌を活性化し有害菌の分解を行い、蓄糞の完全腐熟化・ヘドロの砂質化を可能とする。  
前述の生鶏糞2300t→完全腐熟900t 減容から残留有機物の多さが分かる。

# IBA-DXの働きへドロ還元状況(糸島深江浜編)



施用前～一か月後

施用一か月～一年後

# 現在の取り組み状況(MOFU-DX&IBA-DX)

- 廿日市にてあさり・ムール貝
- 山陽小野田にてあさり・しじみ・ハマグリ
- 伊勢湾津市にてハマグリ・あさり・車海老
- 長島東町にてブリ・長崎にてフグ
- 広島大学 生物生産学部との共同研究にて現在室内試験終了し  
尾道・浦崎海老干潟にてフィールド・スケールアップ試験開始

